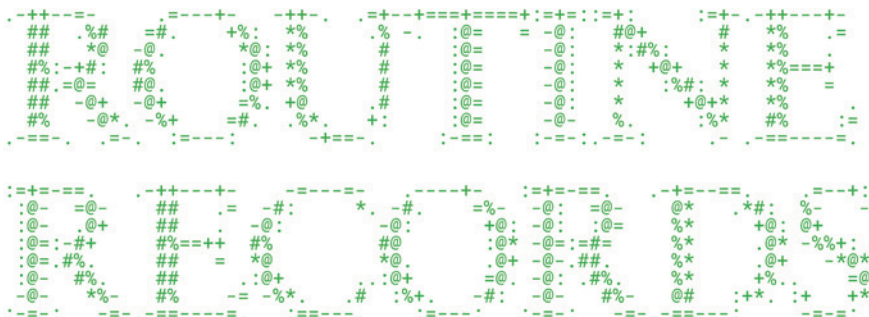


lab.5

ROUTINE RECORDS

2022年10月1日(土)～2023年3月21日(火・祝)

1



福祉実験ユニット「ヘラルボニー」による、
知的障害*のある人々の日常音を社会へ届ける新プロジェクト
「音」を通じて、彼ら彼女らの異彩を世界に放ち、体験者へ思考の変化を促します

展覧会名	lab.5 ROUTINE RECORDS
会期	2022年10月1日(土)～2023年3月21日(火・祝)
休場日	月曜日(ただし10月10日、10月31日、1月2日、1月9日は開場)、 10月11日、11月1日、12月29日～1月1日、1月4日、1月10日
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
会場	金沢21世紀美術館 デザインギャラリー
料金	無料
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
協賛	東京建物株式会社、株式会社みずほ銀行、PwC JAPANグループ、清水建設株式会社、大和リース株式会社
協力	富士通株式会社
助成	令和4年度文化庁文化芸術振興費補助金(Innovate MUSEUM事業)
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL: 076-220-2800



*金沢21世紀美術館では、2004年の開館時より、「誰にとっても来館しやすい、楽しい美術館とは」をテーマに、地域の人々との活動を続けています。様々な背景を持つ人々とのコミュニケーションの多様なあり方を模索し、多くの人が芸術文化を通して社会参加できる場としての美術館を目指しています。

本資料に関する
お問合せ

金沢21世紀美術館 事業担当: 吉備久美子
広報担当: 齊藤千絵・石川聡子・落合博晃
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<https://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



プロジェクト・ステイトメント

「ん〜」「さんね」「な〜い」「し〜んかんせ〜ん」。4歳上、重度の知的障害を伴う自閉症の兄・翔太は今日も、謎の言葉を延々と唱え続けている。響き自体が心地いいのだろうか、意味や意図はあるのだろうか。ふとすると自宅で聞こえてくる謎で愛おしい環境音は、外出先では奇異の目に晒（さら）される音に変貌を遂げる。これは兄だけに限った言動ではない。知的障害のある人の、自閉症のある人の、不思議な行動特性でもあるのだ。不思議で愛おしく謎に満ちた彼等の繰り返す言葉の数々が、「金沢21世紀美術館」を舞台に音楽へと昇華されていく。あのとき、学校で見た、電車で見たと、あの風景や音を想像して欲しい。知的障害のある人のルーティンが作りだす、新しい音楽「ROUTINE RECORDS」は、実験的音楽を耳で感じながら、あなたの心の記憶を“繰り返し”再生させるプロジェクトである。

株式会社ヘラルボニー

代表取締役 松田崇弥 松田文登

企画概要

本展は、金沢21世紀美術館デザインギャラリーを作品展示の場所としてだけでなく、調査・研究・実験の場として開きつつ、そのプロセスをプレゼンテーションすることを目的に2017年より始動した〈lab.〉(laboratoryの略)シリーズの第5弾です。今回は、近年あらゆる分野を横断して福祉とアートの新しい可能性を試みる、気鋭の福祉実験ユニット「ヘラルボニー」の新プロジェクト「ROUTINE RECORDS」をご紹介します。金沢市内の特別支援学校や福祉施設、他県の福祉施設に通う知的障害のある人が習慣的に繰り返す、日常の行動(ルーティン)から生まれる音を丁寧に紡ぎ、音楽として届ける試みです。会場では、個々の音の視聴コーナーや、ルーティン音をプロの音楽家が実験的に生成する楽曲の視聴、鑑賞者がルーティンによって生まれた音をリミックスし、新しい音楽を制作できるDJブースなどを設け、聴取した音が音楽となる創造的なプロセスを多角的に体験することができます。本展を体験した鑑賞者が、多様な背景を持つ他者への理解を深め、気づきを促す機会となることを期待します。

展示構成と特徴について

知的障害のある人々の日常から生まれる様々な音や環境について、鑑賞者は会場を1周しながら、制作された音楽やその創作プロセスの体験も含め、多角的に知ることができます。また、特設WEBサイトにても、ルーティンから生まれた音の紹介などを通じ、プロジェクトの一端を公開します。

「ROUTINE RECORDS」特設WEBサイト: <https://routinerecords.com/>



【参考：会場イメージ図】

〈展示を構成する3つの要素〉

①音の生まれる背景について

「繰り返し行動 (=ルーティン)」をもつ知的障害のある人々（※本プロジェクトでは、「ルーティナー」と呼称します）による、日常で生まれた様々なルーティンについて、「音」や「言葉」として聞くことができるコーナーがあります。

②ルーティン音から生まれた音楽や映像の視聴ブース

例えば紙をちぎったり、言葉遊びをしたりというルーティン音から生まれた、プロの音楽家による音楽を視聴できるブースを予定しています。

③体験ブースについて

会場中央に設置されたブースでは、音楽を構成するルーティン音が生まれた背景やその特徴、制作された音楽の視聴体験を通じ、鑑賞者自身が様々なルーティン音を組み合わせ、自由に作曲できる創作体験ができます。

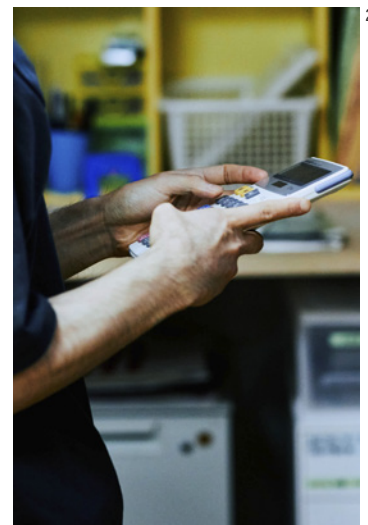
展示するルーティン音の紹介（一部）

タイトル：「CALCULATOR」

ルーティナー：高野 圭悟 (Keigo Takano)

在籍：地域支援センターポレポレ（石川県金沢市）

電卓を触るのはおそらく自宅で生まれたルーティンだろうと施設職員は語る。実際には電卓を用いて計算などはしておらず、ボタンを押しているのみである。数字に関する興味は元来強く、家計簿やレシート、車のナンバーも好きだという。独り言で以前見た車のナンバーや道路番号を口ずさむことも多々あり、自分の見たもの、経験したものを日常の中に取り入れている様子がさまざまなルーティンから伺える。



撮影場所：地域支援センターポレポレ

協力福祉施設・
特別支援学校・
個人

- ・地域支援センターポレポレ（石川県金沢市）
- ・金沢大学附属特別支援学校（石川県金沢市）
- ・京都市ふしみ学園アトリエやっほう!!（京都府伏見区）
- ・やまなみ工房（滋賀県甲賀市）
- ・さふらん生活園（愛知県名古屋市）
- ・松田翔太（岩手県金ヶ崎町）

**株式会社
ヘラルボニー
について**

ヘラルボニーは「異彩を、放て。」をミッションに掲げる、福祉実験ユニットです。「ヘラルボニー」は、創設者の自閉症の兄・翔太が7歳の頃自由帳に記した謎の言葉で「一見意味がないと思われるものを世の中に新しい価値として創出したい」という意味が込められています。同社は、日本全国の主に知的な障害のある作家・福祉施設と契約を結び、2,000点を超える高解像度アートデータの著作権管理を軸に、福祉領域の拡張を見据えた多様な事業を展開しています。今回はヘラルボニーにとって初めての北陸地方、初めての美術館での展示活動となります。金沢21世紀美術館を拠点とした社会実装を通じて「障害」に対するイメージ変容と福祉を起点とした新たな文化の創造を目指します。

ヘラルボニー

関連プログラム

本展の関連プログラムとして、パフォーマンス及びトークなどのイベントを、オープン初日の10月1日、「世界ダウン症の日」の3月21日に合わせて実施予定です。トークには手話通訳を取り入れ、あらゆる人々が情報にアクセスしやすい環境づくりを目指します。

<スケジュール(予定)>**●2022年10月1日(土)**

オープニング&トーク

時間:16:30~17:30 会場:レクチャー・ホール 料金:無料

定員:60名 ※WEB申し込みフォームより予約、先着順

言語:日本語(日本手話通訳あり)

※後日アーカイブ配信予定あり(日本語字幕あり、手話通訳なし)

<登壇者>

松田崇弥(株式会社ヘラルボニー)

鶴尾千亜紀(金沢大学附属特別支援学校)

菊 義典(NPO法人 地域支援センターポレポレ)

●2023年3月21日(火・祝)

クロージング・パフォーマンス&トーク(会場:シアター21 ほか)

関連グッズ販売

会期期間中、当館ミュージアムショップでは、ヘラルボニーと金沢21世紀美術館のコラボレーションを記念して本プロジェクトのロゴをあしらったオリジナルのロングTシャツなどの限定商品をはじめ、同社が運営するアトライフスタイルブランドの各種商品を販売予定です。

これまでの
lab シリーズ
について

lab.1 OTON GLASS

「知覚」の拡張をテーマに新しいデバイスの可能性を探る。

会期：2017年4月8日(土)～7月23日(日)

lab.2 Sight

知覚拡張デバイス「Sight」で耳から世界を見る。

会期：2017年8月5日(土)～11月5日(日)

lab.3 DeathLAB:死を民主化せよ

最先端の死の研究所「DeathLAB(デスラボ)」。

死を光に変換し、宗教や民族や家族を超える新たな追悼の形を問う。

会期：2018年7月7日(土)～2019年3月24日(日)

lab.4 Space Syntax

都市や景観デザインの新たな手法として注目を集める〈Space Syntax〉理論によって、空間レイアウトと私たちの行動との関係を探る。

会期：2019年10月12日(土)～2020年3月22日(日)

※各プロジェクト詳細は当館ウェブサイトをご参照ください。

広報用画像

画像1～4を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

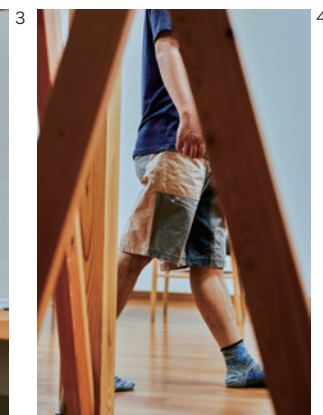
※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。



撮影場所：地域支援センターポレポレ



撮影場所：地域支援センターポレポレ